

奈良県と長野県との繋がり(薬師寺東塔の改修工事に関わる発見について)

信濃教育会雑誌図書編集部 担当 小市正輝

参考文献

- 雑誌「信濃教育」
- 博物館資料
- 信濃教育会50年誌・90年誌
- 日誌

大正2年6月号

奈良県学務課長清水篤太郎氏と眞菅小学校校長山田謀吉氏は5/8柄澤松本高女校長と共に、来所、佐久間象山全集等を視察。

○他県との行き来は大変盛んであったことが伺える。

大正2年8月号

奈良市教育会主催図書講習会
・大正2年8月11日から24日まで
・奈良市奈良第二小学校
・水彩画・油絵・木炭画の講習会

○これ以降も各種の全国規模の研修会の紹介をしている。

昭和23年4月1日

○総務主任に小池董一氏が就任をする。

○小池主任が就任をした頃から、奈良国宝保存連盟との交流がよいよ本格的に始まっている。

昭和25年12月

趣意書が届けられる。

その大きな出会いの契機

○昭和24年の法隆寺の金堂が火災のため焼失してしまう。

○趣意書の内容
○見学態度のすばらしさ、そうした学ぶ姿勢に感動し真っ先に長野県に声をかけた
○焼失した法隆寺金堂の心柱として、木曾の檜が使われるので、そうした意味でも是非よろしく願いたい。

これ以降

○小池董一氏と奈良県とのやり取りの手紙による。

○法隆寺・東大寺・薬師寺の改修工事实施

昭和26年2月

○奈良文教委員5名視察のため来会す。

昭和26年1月10日

○常任委員内並びに部長会綴りより
○議題7として、奈良国宝保存連盟より依頼の件。依頼状の朗読並びに趣旨説明。
○教育委員会と連絡して、斡旋してもらいたいということであるが、信濃教育会として斡旋をするかどうか。

昭和26年4月18日

○奈良件国宝保存会から依頼の件につき、県教育委員会高校協会打ち合わせを行う。

昭和26年4月18日

○各学校長宛という文書で、国宝保存学徒募金斡旋の件でということで、信濃教育会の名前で依頼文書を出している。

昭和26年5月12日代議員会

議題 奈良国宝連盟より依頼の件
○国宝保存のために協力願いたい。
○教育委員会と連携の上、趣意書をあげる。

小池主事より提案

○修学旅行、その他趣旨をお話いただき、ご協力願いたいと思って、斡旋をした。よろしく取り扱って欲しい。

昭和26年9月21日

○奈良交換教員辻内耕作来会す。
○9月21日来会者奈良交換教官辻内耕作氏視察す馬場学務課長。

昭和26年12月24日

○奈良県留学教員宮下氏の他2名来会す。

○奈良県からの派遣教員辻内耕作帰県

昭和26年10月25日

○更なるご支援を賜りたいと言うことで、昭和26年4月に信濃教育会が各学校長宛に出した文書の写しを添付して、各学校長当て依頼をしている。

○小池氏と辻本氏の手紙のやりとり

昭和27年1月18日

○常任委員会において
○奈良国宝保存連盟より来会の件。保存会より御礼に来られた。学徒の協賛金は50万円で、長野県はよくご協力いただいたと言うことであった。

昭和26年11月9日

○高等学校協会より、旅行の葉出すことにした。関西旅行の葉であるが、相当よいものなので、活用されたい。売価100円である。

昭和27年1月24日代議員会

○奈良国宝保存連盟に関する件
「小池主事」奈良国宝連盟ではご協力お願い致しましたが、本県からは50万からの協賛があったので、御礼に来県され、よろしくとのことでした。見学等の機会には、連盟にご連絡いただければ、便宜を図る由。

昭和27年1月7日

○奈良県国宝保存連盟から謝礼挨拶のため、県議会議長辻本氏他2名来会する。

○修学旅行の葉「関西の旅」のすすめ
奈良県国宝保存連盟 松本楯重 様
・大事な記録が書かれた貴重なものなので、是非手元に置いて読んで欲しい。

昭和27年1月24日代議員会

○国宝調査委員会
・今年度の計画の重点、並びに進行状況の報告
・国宝目録(長野県関係)
・国宝の歴史的背景の調査進行中

○信濃教育会博物館の収蔵品目録には、昭和27年南都薬師寺塔修復記念瓦の拓本—奈良国宝保存会—という記録があるが、現在その拓本を探している最中である。→9/30現在見つからない。

昭和27年10月12日の日誌

○奈良薬師寺東塔落慶式参列 小池主任
10月12日 日曜日 晴
10月13日 月曜日 晴
小池主任奈良出張滞在と記されている。

昭和27年10月7日

○奈良県薬師寺東塔落慶式案内が到着

昭和51年県歌信濃の国の歌碑建立

○歌碑建立が、長野県政100周年、信濃教育会創立90周年を記念して、持ち上がった。寄付は募らず、県民・児童生徒・関係団体の寄付で長野市と松本市に建立した。
○その長野会場に高田好胤先生がお見えになり、県庁で講演をされている。黒田新一郎社会福祉協議会会長、太田美明事務局長が中心として取り組まれた。

昭和57年2月長野市教育会誌より

○南都六大寺展が開催された。その時には、長野県の子どもの見学態度に感心をされ、南都六大寺の皆様が、他所には出さない仏像までも長野県に持ってこられて、県民にご覧いただく機会をつくられた。子どもたちの見学態度がこうした機会をつくったのである。

○昭和26年9月21日 奈良県交換教員 辻内耕作し来会する。とあるように、以前から奈良県と長野県では、中堅の教師の人事交流が積極的に進められていた。
○また、子どもたちが、薬師寺等に修学旅行に出かけた際、事前学習等が徹底して行われていたので、質問がかなり鋭いものが発せられ、奈良県の皆様にとっても一目置かれていた。
○かつてから長野県では、地方史を調べるのが盛んに行われていた。各地に散在している神社仏閣等の研究があり、意識が高威という背景があり、こうした申し出に快く応えたものと考えられる。

○当時は高等学校が盛んに関西旅行をされていたのではないだろうか。「関西の葉」について、たかがこの葉100円である。こんな素晴らしいものはないし、今後大事な勉強の資料となるかけがえのないものである。リング5個の価格である。それを無駄にはしてはならない。という記述も残っている。